



イエス団報

Jesus band news

2012/12/24

15

再刊 15号

- 2012年国際協同組合年
イエス団の取り組み
- クローズアップ『理念委員会』
- 研修報告
新任職員研修会
ブラッシュアップ研修会
リーダーシップ養成研修会
1泊施設長研修会
2011年度リーダーシップ養成研修
フォローアップセッション
- イエス団の輪っ
山口 政紀さん
真下 謙さん
- 施設紹介
のぞみ保育園・真愛くもちホーム
野の百合保育園
- トピックス
「かがわ・子ども子育て支援センター
事業推進委員会」の動き
保育将来構想委員会
- J.B.フェローズ活動報告
四国 京都 兵庫 大阪（各ブロック）

発行：2012年12月24日

発行者：黒田 道郎

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

TEL：078-221-9565

FAX：078-221-9566

<http://www.jesusband.jp>



ミッションステートメント2009

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然を大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

「2012年国際協同組合年」

イエス団の取り組み

2012年、今年の国連のテーマは協同組合と持続可能なエネルギーです。国連は「国際協同組合年」と「すべての人々のための持続可能エネルギーの国際年」と唱って世界中の人に向けて意識を高めてもらおうとしています。賀川記念館はこれらのメッセージを多くの人たちに共有していただけるように、次の4つの事を中心に様々な活動を行いました。

1. パネル展の開催

コア100賀川(賀川記念館の活動をサポートしていただいている実行委員会)の協力を得て40枚のパネルをつくりました。そのパネルを21セット製作し、各地でパネル展を開催していただきました。

パネルは「国連の国際年とはなにか」「協同組合の歴史」「現代の協同組合運動」「賀川豊彦たちからの問いかけ」「今わたしたちに求められているもの」という5つのセクションに分けて、それぞれのメッセージを伝える内容になっています。最後のセクション「今わたしたちに求められているもの」で提言しているように、住宅やエネルギーに取り組んでいくことは、決して一過性のものではありません。2012年の国連テーマはキックオフのきっかけとなります。金融経済を優先とする一部の人の思惑で、原発が一般市民の了承を得ずに再稼働しようとしているとき、市民一人ひとりの意思を尊重する協同組合運動が、新たな市民社会構築の原動力となりますように皆さまの積極的な参加を願っております。



賀川記念館での国際協同組合年パネル展示

2. 講演会の開催

「国際協同組合年」に賀川豊彦たちの活動、すなわち日本の協同組合運動の原点を話してほしいというオファーはゆうに100本を越えました。賀川館長と西参事がそのオファーに応えました。嬉しい悲鳴の余波は年が明けても続き、既にいくつかのオファーをいただいています。

賀川館長が数ある講義や講演の中で訴えてきたことは、『痛みシェア』を強めてください、ということです。賀川記念館のキャッチフレーズ『一人は万

人のために 万人は一人のために』の後半にあるように、痛みある『一人』に『万人』がどのようにともに生きるのかを、一緒に考え、実践していきましょうと呼びかけてきました。



韓国からの青年グループを迎えて(賀川館長)



講演会で賀川豊彦の説明(西参事)



全労済から多くの参加をいただきました。

3. ロバート・シェルジェン氏講演会

今の社会の中で協同組合や生協が環境に対して、どのような役割が果たせるのかを考えようと、9月8日(土)に「環境・エネルギー問題と協同組合」をテーマ

にコープこうべ生活文化センターで講演会を行いました。

講師は、元バークレイ生協(1988 年解散)の「コープ・ニュース」の編集者で、1988 年の賀川豊彦生誕 100 年を記念して出版された「賀川豊彦 愛と社会正義の使徒」の著作者でもあるロバート・シルジェン氏をお招きしました。当日は、生活協同組合関係の方ほか、155 人が参加しました。



ロバート・シルジェン氏講演会の様子



ロバート・シルジェン氏と通訳

4. フィリピンからの 協同組合研修団受入れ

2012 年 11 月 19 日から 30 日迄の間、7 名の協同組合研修団の受け入れを行いました。国連は 1. 協同組合を世界に知らせ 2. 協同組合を作り 3. その支援を各国の政府や団体に要請する、と総会で決定していました。日本は協同組合の先進国です。協同組合の父である賀川豊彦の精神を継承している賀川記念館は、この国連の主旨に賛同しています。

ちょうど 3 年前、賀川記念館の共通の友人であるフィリピンのアランさんからフィリピンで協同組合を立ち上げたいと努力している人たちがいるので、是非日本の協同組合を学ぶ機会を作れないかと依頼がありました。そこで、農協や、漁協や生協、神戸大学のご協力を得て賀川記念館挙げてこの研修団を受け入れました。2 週間という短い研修でしたが、大変充実

した内容の収穫があり、「愛と協同」という賀川豊彦先生の精神を受け継いだ 7 人は、フィリピンでの新たな協同組合作りで希望と目標を持って帰国しました。



有機農法の畑で(フィリピンからの研修団)



ICA-AP 会場前で語り部の方とフィリピン研修団

2012 年 11 月 26 日～30 日、国際協同組合同盟アジア・太平洋地域総会(ICA-AP)が神戸国際会議場で開催されました。海外から来られる多くの参会者の方々へ賀川記念館を知っていただこうと賀川記念館語り部の方々がビラで案内し、決して多くはありませんでしたが、賀川記念館へ足を運んでいただきました。

2012 年国際協同組合年を通して、賀川記念館では皆さまからご支援をいただき、様々な取り組みを行うことができました事を、感謝を持って報告させていただきます。





理念委員会構成メンバー左から時計回りに賀川督明委員、祐村明委員、馬場一郎委員、黒田道郎委員（理事長）、宇野豊委員長、田村三佳子委員、上内鏡子委員、西 義人委員、真下謙委員、後ろ向きですが平田義委員（常務理事）、中田一夫委員（写真撮影）

クローズアップ 理念委員会

理念委員会は「賀川豊彦献身 100 年記念事業」の一環として発足しました。100 年記念事業を終えた現在では、その後も働きを継承し以下の協議を行っています。

1. 「ミッションステートメント2009」の策定

2006 年に開催された法人理事会で、定款施行細則及びイエス団憲章における「最微者（いと小さき者）」に仕えるために」の表現について検討すること、「貧民心理の研究」における賀川豊彦の発言についてのイエス団としての考え方を整理すること、そして、賀川豊彦献身100年記念事業の一環として理事、学識者を中心に委員会を立ち上げ検討していくことが決められました。2007 年5月に、理事会決定を踏まえて理念委員会を発足させました。委員会ではまず、1999 年に定められた「イエス団憲章」を軸としつつ、法人の基本理念を表し、これからの時代のニーズや課題を見据え、イエス団の自己理解と使命、具体的な方針を明らかにするための「ミッションステートメント」を作成することとしました。

2. 「賀川問題」への取り組み

その内容の検討と協議に平行し、「いわゆる賀川問題」のとりえ直しの作業も開始しました。理念委員会としては、1962 年の「賀川豊彦全集24巻」発刊、また、1981 年の一部削除された全集第3刷第8巻発刊以降の諸団体とキリスト新聞社の話し合い、および関連するキリスト教界の反応等の一連の動きをトレースしながら、被差別部落に対する極めて不十分な認識に限らず、その他の賀川豊彦の思想に内包される諸課題についてもとらえ直していくこととしました。それは、表現や実績の一部を切り取って「評価」するのではなく、賀川豊彦の「考え方」と「生き方」をできるだけトータルに把握する中で、そこにさまざまな課題があることを確認し、今に生きる我々が、彼の「課題」と「限界」を受けとめ、我々もまた、乗り越えようとする努力を続け、時代の脈絡の中でイエスに倣って生きることを意味を問い続けたいとする思いからでした。2009 年1月の理念委員会での協議を踏まえ、イエス団施設長研修で「いわゆる『賀川問題』についてー考え方と理解のためのメモー」を提出、宇野委員が発題し、翌年1月の「雲柱社・本所賀川記念館・イエス団合同研修会」でも同様の発題をおこないました。2010 年4月には、日本キリスト教団部落解放センターと理念委員会との意見交換・懇談をおこない、課題について共に担っていくことが確認され、お互いにとって非常に有意義な場となりました。このような流れと内容を踏まえつつ「ミッションステートメント」の策定作業を進め、2009 年秋に結実し、さらにその具体化を期して、賀川記念館総合研究所公開プログラムでの人権に関わる講座の設置等、さまざまな取り組みを予定しています。

3. 施設と教会との関係について

イエス団の各施設と関係教会との関係については、過去にアンケート調査を実施し、それぞれの地域の実情によって、さまざまな形があることが確認されました。今年度は、新たな質問項目を追加した上でアンケートを実施し、現状を把握し、課題を抽出していきます。共にイエスに倣って生きるものとしての連携を強化していければと願っています。

4. 賀川記念館総合研究所 公開プログラムの企画

2009 年策定された「ミッションステートメント」を実践に繋げるために、賀川記念館総合研究所の公開プログラムの企画を組み立てることとしました。それは、「いのち」を支え合う福祉や医療、地域に関するテーマはもちろん、「いのち」そのものを問い、「いのち」の格差や差別をなくすこと、また「いのち」を取り巻く、水や食料、エネルギーや自然環境といったテーマ、これらすべてを総合的に受け止め、一人ひとりの取り組み、また各施設、イエス団としての、実践への道筋を学ぶ機会とすることを目的としています。

委員長 宇野 豊（京都ブロック長 桃陵乳児保育園園長）

研修報告

研修をふり返って

今年も多くの出会いがありました。イエス団に連なる仲間として、共に学ぶことができたことを感謝しています。参加された皆さまが今、いきいきと働いていらっしゃることを祈っています。

さて、今年の研修を一言で表すならば、MS2009から「どのような社会を私たちはつくりだすのか」ということに行きつきました。それぞれの現場で、私たちはイエス団の一員として何をすべきなのか、どう生きるのか、そして私に何ができるのかを考え続けました。研修を通して、スタッフも自分自身の学びの場として豊かな時を与えられました。良い研修を提供するためには、自身が学ばなければなりません。できるだけ多くの施設長に、その学びを共有してもらえたらとも願っています。

ブラッシュアップ研修のフォローアップセッションも1月19日(土)に、また、リーダーシップ養成研修のフォローアップセッションを3月2日(土)に予定しています。研修を経て、一歩前に踏み出された皆さまに、お会いできることを楽しみにしています。MS2009の実現に向けて、今後もイエス団が一つとなって歩むことができますように。

企画委員会 研修チーム委員長
甲子園二葉幼稚園園長 田村三佳子

新任職員研修

2012年3月26日(月)～27日(火)
於：六甲山YMCA



参加者とともに

2012年度一泊新任職員研修は、前年度に引き続き、自然に囲まれ吹雪の中、六甲山YMCAにて行いました。新任職員の参加が69名、スタッフ・フェローズを加えると優に80名を超す研修となりました。

目的は、「イエス団の理念を理解し職員としての使命を考える」「感じる、考える、気づく、伝える、聴く、分かち合うことの大切さを学ぶ」「新しい職場に入っていく準備をする」の3つです。

講師は、シチズンシップ共育企画代表である川中大輔先生でした。講義形式ではなく、1グループ5、6名で構成されたチームで語り合い、課題に取り組むことを主とした研

修でした。目的を持った様々なワークを行いながらも、同時に他者とかかわる自分自身に気づいていく学びの深いものとなりました。



研修が始まります。

開会礼拝で平田義常務理事の奨励のテーマでもあった「イエスに倣って生きる」を柱とし、各スタッフから「キリスト教と私」と題した証しの時も度々持ちました。

今回、フェローズとして各施設から先輩職員6名の参加がありました。不安が多い新任職員たちにとって支えとなったのはもちろん、フェローズ自身も振り返りと共に新たな学びを得る研修となりました。



グループワークの一コマ

研修の最後でもある閉会礼拝では、黒田道郎理事長から「主イエスのよびかけ」というテーマで奨励がありました。そののちの辞令交付式では、一人ひとりの決意を表す「私のミッションステートメント2012」を宣言したのち、理事長から辞令を受け取りました。理事長と交わす固い握手は、新任職員にとってここから各々の職場に派遣される、新しいはじまりの一步になったことと思います。一人では決してできない、まさに交わり学び合う新任職員研修でした。

<フェローズとは>

新任職員研修において、新任職員のアドバイザーとして、また講師・スタッフと参加者とのつなぎ役として、グループワークでの助言やプログラム進行の裏方を担う先輩職員のこと。フェローズ自身もこの研修で思いを新たにすることが多いとのこと。フェローズは、企画委員会より1月頃公募され、施設長からの推薦により派遣される。

*2012年度派遣職員(施設名は、新任研修当時)

立石和博(聖浄)、荒木恵美・松永弥生(杉の子)、
北野由香(ガーデンエル)、小井手佑圭(のぞみ)、
荒木健(宇山光の子)

報告：企画委員会 研修担当チーム
杉の子保育園園長 今村 優二

ブラッシュアップ研修

2012年6月15日（金）～16日（土）
於：六甲山YMCA



参加者集合写真

ブラッシュアップ研修の大きなテーマの1つは「日常の現場を離れ、働き始めた時の自分の原点を思い見つめ直す」です。

前年度の反省や課題を受けて、毎年内容については手直しがあるものの、このテーマ自体はずっと変わることがありません。参加者のうち半数以上の人々が「イエス団の他の施設の職員と話せることが良かった」「今の自分、これからの自分を考えることができた」という感想を寄せているのを見ると、この研修の意義は大きいと言えるのではないのでしょうか。

ただ、今年度の参加者は18施設24名でした。これは多いのでしょうか少ないのでしょうか。

研修を企画する側としては、できるだけ多くの職員に参加して欲しいと思います。イエス団の施設数は全部で約40施設です。そこから単純に考えると全施設からの参加は得られていません。参加者数を増やすだけなら強制参加にすればいいのですが、参加者が「行かされている」と思うのでは意味がありません。「行きたい、行かせたい」と思って来てもらいたいですし、また、そのくらいの研修の質であると自負しています。



グリーンチャペルでの礼拝

また研修の良し悪しは、参加者数や参加者のその場限りの満足感だけではなく、参加者自身が現場の施設に戻ってからどう行動するかによるのではないのでしょうか。研修に送り出す各施設の現場の調整は大変だと思いますが、同じ施設内で共通した研修を体験した職員が増えていくことは、その後施設内できっと大きな力や働きとなることだと思います。



いよいよ研修スタート

この研修には、MS2009の5つの柱である「違いを認め合うこと」「隣人と共に生きること」などにつながるきっかけがいっぱい散らばっています。また、研修での出会いは、いろいろな気づきを与えてくれます。それは参加者同士もそうですが、研修参加者と研修企画者の間でも言えると思います。そういう意味では参加者一人一人が、この研修自体をブラッシュアップしているとも言えるのではないのでしょうか。



グループワークのーコマ

その具体的な形として、このブラッシュアップ研修の参加者を対象として、2013年1月19日にフォローアップセッションが実施されることとなりました。

各施設の人材育成の充実、今後のよりよい研修のためにも、多くの研修参加者の派遣を望んでいます。



施設ごとにハッピーニュースを報告

報告：企画委員会 研修担当チーム

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」 太田 正人

リーダーシップ養成研修会

2012年8月30日（木）～9月1日（土）

座学：エルイン京都会議室、メルパルク京都会議室

フィールドワーク：希望の家カトリック保育園
地域福祉センター希望の家
京都コリアン生活センター
「エルファ」



東九条地域の現状をお聞きする

MS2009にある「社会をつくりだすリーダーシップ」をテーマとし、「MS2009の実現に向けて必要なリーダーシップの能力を高める」というねらいを基に、京都駅前のホテルエルイン京都での座学と京都東九条地域でのフィールドワークの研修を2泊3日で行いました。

開会礼拝では、京都ブロック長で桃陵乳児保育園の宇野豊園長から、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」をテーマに奨励していただきました。そして2日目のフィールドワークの事前学習として、引き続き宇野園長は、スライドを通して京都東九条地域の概要と歴史、またこの地域に在住されている在日韓国・朝鮮人の方々との共に生き、共に行政と闘ってこられたご自身の歩みについて語っていただきました。



希望の家児童館にて

また2日目のフィールドワークでは、実際に東九条地域を歩き、社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会「地域福祉センター希望の家」「希望の家カトリック保育園」、NPO法人京都コリアン生活センター「エルファ」を見学させていただき、施設職員の方が「共に生きる喜び」をテーマに、“利用者の方々が自分らしく生きる社会を、手を取り合い共に生きていく社会を、そしてあらゆることを喜びに感じられる社会を作り出したい”と熱く語ってく

ださいました。

これらのフィールドワークを踏まえて、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔先生によるグループワーク中心の8つのセッションが行われました。



グループワークの一コマ

具体的には「社会をつくりだすリーダーシップとは」「フィールドでの気づき」「私の隣人に気づく」等などのセッションで自身の学びを深めたのち、参加者施設の地域にある社会的ニーズをとらえ、施設でどのようなことができるのかを提案することを目的に、「MS2009実践のためのアクションプラン」を作成しました。このアクションプランは参加者各自が施設に持ち帰り、施設長や職員と共に練り上げた上で実践されることを期待しています。



アクションプラン作りの相談をする参加者

閉会礼拝の奨励で、平田義常務理事は「人が苦しみを感じているとき、哀れに思うのでなく、自分も苦しく痛みを感じる、人の痛みを自分の痛みとしてとらえることが大切」であることを話されました。そのような人に、又そのような施設であり続けながらのアクションプランの実践を目指してほしいものです。



京都コリアン
生活センター「エルファ」にて

報告：企画委員会 研修担当チーム
ぶどうの木保育園園長 木村 耕

2012 年度 1 泊施設長研修会

2012 年 7 月 27 日(金)・28 日(土)

場所：和歌山県みなべ町

本年度の 1 泊施設長研修は和歌山県みなべ町を訪ね、愛之園保育園、日本基督教団南部伝道所、みなべ町役場訪問を通して広い意味での危機管理の観点から、イエス団各施設で優先して検討すべき課題を持ち寄り共有すること、東南海大地震に備え、みなべ町の防災対策に学ぶことを目的として実施されました。

開会礼拝

南部伝道所において磯部紀代子牧師から説教をいただき、教会員の皆様との交流の時を持つ事ができました。



南部伝道所にて教会員の皆様と

愛之園保育園訪問

海拔 3.9 メートルに位置する愛之園保育園の現状を視察。みなべ町地域子育て支援センター「こひつじランド」ではおいしい梅シロップをいただきながら、地域での子育て支援についてお話をお伺いしました。様々な工夫やアイテムに興味深く聞き入り、お話を伺いました。

みなべ町の防災対策について学ぶ

みなべ町役場を訪問し、総務課防災担当尾崎聡氏から現状についてお話を伺いました。実際のハザードマップの運用や、情報収集のための工夫。情報伝達のための工夫など、地域の実情に合わせた方法を検討し、運用されている現状について学びました。対症療法と長期的な展望に立った対策の必要性を感じました。



みなべ町の津波予測ハザードマップ

また、会の初めにはみなべ町の住民環境課松川課長、田中主幹にもご挨拶をいただき、今後の愛之園保育園の防災対策についてもお話をいただきました。愛之園保育園の防災対策はもちろんのこと、みなべ町全体の地域防災についてもイエス団とともに取り組んでいくことができることが、地域、社会にとっても望まれます。



みなべ町役場住民環境課長よりお話を伺う

各施設の危機管理に対する取り組み

みなべ町の防災対策に学びつつ、イエス団各施設の防災対策についてそれぞれの施設の危機管理マニュアルなどを持ち寄り協議の時を持ちました。マニュアルの整備とともに、職員一人一人が理解を深め実施していくことができるものとするための工夫についても事例が発表され、さらに協議を深めることができました。



全体協議・事例発表 国民宿舎紀州路みなべにて

報告：イエス団本部事務局 小野昌二

1 泊施設長研修を終えて

今年 3 月、次の研修はみなべで危機管理について研修をしよう…というお話をいただき宿泊先の選定、仮予約等本部からも足を運んで頂きながら準備が始まりました。陸の孤島と言われる和歌山県のみなべ町ですから交通の便も悪く（これでも随分良くなったのですが…）皆様方にはご不便をおかけしたと思います。盛夏の折、多くの方々にお越しいただきありがとうございました。何もない所ですが、天候に恵まれ 海と山 自然の優美さと海の幸の美味しさは、堪能して頂けたのではと思います。

礼拝が行われた南部伝道所は、築 79 年の建物で雨漏れ、シロアリ被害等あり大地震が起こればひとたりもない状態ですが、賀川先生由縁の会堂いっばいに響いた讃美の歌声に教会員一同大変感動し、忘れられないひと時となりました。

保育園では、ちょうど午睡時でわずかな時間でしたが海を目とした立地条件、子育て支援の働き等現状視察をして頂きました。子育て支援センターこひつじランドより『いろいろ興味を持ってご覧いただきありがとうございました。またいつでもお越しになってください』とのことです。また、みなべ町役場訪問により、愛之園保育園はイエス団という法人に所属し、法人の中にはこんなに多くの施設が存在しているという認識がなされたことを感じました。みなべ町としても愛之園保育園の早期高台移転を掲げて動き始めてくださっています。まだまだクリアしなければならない問題は山積みですが、よりよいものになるよう、どうぞお覚えくださり今後とも御加禱とご支援をよろしくお願い致します。

愛之園保育園園長 神谷 羊子

2011 年度 リーダーシップ養成研修 フォローアップセッション

2012 年 2 月 25 日（土）
於：賀川記念館 礼拝堂

2011 年 9 月に行われた「リーダーシップ養成研修」の参加者を対象に、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔先生をファシリテーターに迎えて、フォローアップセッションが行われました。

以前各施設長にご報告した内容ですが、改めて再掲いたします。

<研修の内容>

リーダーシップ養成研修で作成した「アクションプラン」を振り返り、プランを評価する方法、評価したのちの課題解決方法をワークショップを通じて学び、研修の成果を確かなものとする。

「規範のリ・デザイン」

シチズンシップ共育企画代表 川中 大輔

リーダーシップ養成研修フォローアップセッションでは、現場での自らの責任を自覚し、自らの視点で捉えた現場の課題を解決するため、日々様々な努力を積み重ねておられる参加者の方々に接し、私もまた勇気づけられるセッションとなりました。改めてみなさまの現場での働きに敬意を表します。

当然のことですが、組織の課題は容易に解決できないものが残り続け、そうした課題の解決にあたっては、個々人の努力ではなく、チームとしての努力が求められることとなります。今回のフォローアップセッションでは、この「チームになる」ことの難しさに直面されている方々もおられました。

では、「チームになる」とは、どういうことなのでしょう。PM理論（三隅二不二）を援用すれば、チームメイトとしての意識を分かちもち、チームの課題の解決に積極的に／協力的に取り組んでいく、そのような状態と言えるでしょう。この際、それぞれの考えていることや感じていることを自由にコミュニケーションできる「オープンな関係性」をメンバーの間に成立させることが、相互理解／相互協力に求められます。この「オープンな関係性」が実現するには、コミュニケーションを図っていく上での懸念が払拭される「集団規範」を形成し、試行錯誤や新たなチャレンジに取り組めたり、しっかりと話し合える「ゆとり」を組織的に設けていくことが重要でしょう。いずれも職員のみだけではなく、施設長の先生方の援助や協働なくしては、実現に困難を要するものです。特に、一度出来上がってしまった「規範をリ・デザイン」するためには、集団で大きな影響力を持つ存在の働きかけが鍵を握ることは少なくありません。ぜひ、今回の研修に参加された職員の方と共にチームづくりを進めていただければ、幸いです。

職員一人ひとりが自らの賜物に気づいて、チームの中でのリーダーシップを発揮し、支え合いながら「高み」を実現していく。そのために必要な環境整備に、共にあたっていければと、心から願っています。

「フォローアップセッション」の意味

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」
太田 正人

9 月におこなわれた 2 泊 3 日のリーダーシップ養成研修から約半年。施設の諸事情により全員が参加できませんでしたが、半日の研修にも関わらず、なんと豊島の仲間も参加していただきました。それぞれ半年ぶりの再会です。

リーダーシップ養成研修後、施設に戻ってから「うまく実行できたこと、取り組めなかったこと」を個人でまとめ、それをそれぞれが持ち寄りました。それは仲よし反省会ではなく、評価すること。自分の評価に他の仲間の新たな視点と意見を通し、共有することで新たな目標が自分の内から得ることができました。

「会議で発言するのはいつも同じ人たち」「若い人たちは意見を持っていても会議の場では発言しない」「職員同士のコミュニケーションが世代間、クラス間に限られている」「行事が形式化してその意義が伝わっていない」。

このようにほとんどの参加者は、「コミュニケーションの課題」をあげていました。

「施設をよりよくするために自分がこれから新たにに取り組むこと」。その思い、それを実現するにはより具体的に明確な目標が必要です。「いつ、誰と、どのように（数字で表せられるものは数字で）」。

「誰と」これが大きなポイントです。新たな目標を実現するために、施設内においても「仲間」が必要です。

研修に参加した職員だけの力だけではないと思います。それぞれが持ち帰った「新たな目標」が施設内で、研修に送り出した「仲間たち」によって、さらによりブラッシュアップされていくはずです。そこでようやく、この研修が意味あるものとなると思います。

それぞれの施設において MS 2009 の具体的な実現に向けて、これらの法人研修が大きな役割を担っていると確信しております。



ファシリテーターの川中大輔先生



全員での分かち合いの時

イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題しましてリレー形式での投稿。理事・評議員さんからおひと方、一般職員からおひと方ずつ寄稿していただきます。3回目は、理事で神戸 YMCA 総主事の水野雄二さんと、ガーデン天使の高橋成就さんからのご紹介で、山口政紀さんと真下謙さんです。

「ウンと言って下さるまで」



社会福祉法人・学校法人イエス団 理事 山口政紀

母親は賀川豊彦先生から洗礼を受けた、と聞かされていましたが詳しくは知りませんでした。昨年、賀川記念館で「父親の 30 周年記念礼拝」を持ちたいと思い神戸イエス団教会の上内鏡子牧師にお願いするときに略歴を整理していて気がついたのです。

新潟県の農家で生まれた母は京都でいわゆる家事行儀見習いをし、お世話をいただいた家の娘さんの影響で大阪生野の「大阪汎愛扶植会の幼稚園」でお手伝いをしていました。

その娘さんの名前は八田豊子（旧姓畑）さんで「イエスの友会」の活動に参加し賀川先生が設立された「四貫島セツルメント・大阪イエス団教会」に朝早くから出席していました。

八田豊子さんの随筆集（むくいをのぞまず）によりますと、

私の住む生野区から日曜の朝 4 時に起きて 6 時からの礼拝に出席しました。

私の住む町に教会が一つもなく、福音を聞いたことのない人ばかり、信仰の喜びを自分一人にとどめておいては申し訳ない、先生のお話を一度だけでも近所の人々に聞いてもらいたいと思い、吉田源治郎先生に相談しお勧めをいただきました。さっそく賀川先生を西宮瓦木のお宅に訪ねて、賀川先生に自分の希望を話してみました。賀川先生は「それは大変よいことだ。すぐにでも行ってあげたいが、今本の原稿を書いているし農村伝道にも行かなければならないので、すぐにはちょっとむづかしい」

と言われました。しかしどうしても先生のお話を聞かせたい一心で、なん回もお願いしてみました。いろいろお話しているうちに、先生は「これからランバス女学院に講演に行くから、一緒に出よう」と言われたので、先生について電車に乗り、梅田からタクシーでランバス女学院に向かいました。車から一緒に降りた私は、随行者のような立場になって、西洋婦人から丁寧なあいさつを受け、最前列に座って先生のお話を聞きました。さて、また一緒に車に乗ろうとすると、先生は「あんたどこまで一緒に来るの」と尋ねられました。「先生がウンと言って下さるまで」と答えましたら、とうとう先生は笑い出され、「それじゃ 16、17、18 日の三日間午後の 7 時から 9 時まで」と約束して下さいました。飛んで帰り 16 日まで 6 日間の準備を始めました。大阪毎日新聞社を訪ね村島帰之先生にビラの文句を、それを四貫島セツルメントの印刷部へ、イエスの友会の同士の協力で立看板、ポスターを街の辻々に張って回り、ビラは一軒一軒祈る気持ちで配って歩きました。

講演会は盛況で三日間の参加者は八百余人、決心カードの署名が百数十人となり、その後は吉田源治郎先生が四貫島の大阪イエス団教会の早朝の礼拝が終わり次第駆けつけて下さり、汎愛幼稚園で 10 時からの礼拝を始めることができるようになりました。

（その後の生野セツルメントの始まり）

翌年 5 月 19 日新しい「日本基督汎愛傳道教会」（現在の大阪生野教会）が発足し、母はその年 1929 年（昭和 4 年）クリスマスに賀川先生によって 21 歳で受洗したことがわかりました。

身近で行動力のある先輩に啓発された母親はキリスト者としての歩みの中、私たち子どもたちに良い信仰の影響を授けてくれました。子どもの頃の写真には親とともに写っている賀川先生や各地の教会、各地の YMCA のものが残っています。

賀川豊彦先生が乞われるままに（ウンと言わされて）日本の各所に講演に赴き、種をまき、パウロの話をよくされていたことを思い出します。かつて私が勤務していたころに聞いたことで賀川先生が広島教会・学校や YMCA に、姫路の教会や学校などへも出かけておられたことは、熱心なお願いがスケジュールを変更されて実現したのかもしれないと思いました。

イエス団のこれからの歩みも「ウンと言って下さるま

で」にこたえていくことができることに期待したいと思っています。

次は馬場一郎理事にお願いいたします。

「視点を変えた想像力」



イエス団法人本部事務局 真下 謙

前回の大阪ブロック「ガーデン天使」の高橋成就さんより「イエス団の輪っ」のご指名をいただきました、本部事務局の真下と申します。どうぞよろしくお願い致します。わたくし実は京都市在住でして、京都市といっても西山の麓にある田園風景が広がるのどかなところ（田舎）なのですが、本部事務局のある神戸の賀川記念館へは、毎日満員電車で揺られながら通勤しております。時間にして片道約1時間30分……。1年で計算すると……。とんでもない時間になりますが……。(笑) でも、けっこう楽しく通勤しております。

さて、イエス団の本部事務局に入職してまだ3年目の私がこのコーナーに登場させていただいてもいいものかと、長年お勤めの先輩方には少々恐縮ですが、いまさら変更もかきませんので肅々と取り掛かせていただきます。

本部事務局でお仕事をしておりますと研修会や会議、委員会などを通し、各施設で法人の理念である「MS2009」の取り組みについてお話を伺う機会が多くあります。みなさんそれぞれに「5つの宣言文」を実践されておられ非常に参考になりますが、当初は本部事務局職員として「MS2009」をどのように実践したらいいのか、自分なりに理解するまでに少し時間を要しました。というのも、本部事務局の業務は一言で申し上げると各意思決定機関のサポート業務です。決議されたそれぞれの事項を円滑に進めていくために、各責任者からの指示や調整を仰いだり、必要な書類の作成や手配を行ったりしていくことが中心です。関係各部署と連絡を取りながら、日々パソコンと向き合い、多くの書類と奮闘しながら

業務ですので、利用者の方々や支援が必要な方々からの表情が得られない中での実践なのです。そんな中「MS2009」をどう実践すればよいか自問自答していた頃、ある方のお話で「視点を変えた想像力」という言葉を伺って、なるほどなあと思いました。たとえ利用者の方々や支援の必要な方々の表情が得られない、無機質なコンピューターや書類が相手の煩雑な業務でも、それは必ず必要な方々に届くというものです。こちらからの一方的な視点ではなく、この仕事の向こう側におられるイエス団に關係する施設で、支援の必要な方々が居られるということを想像し、自ら利用者の方や支援の必要な方に寄り添う気持ちを持って業務に取り掛かることこそが「MS2009」の実践だと思いました。

これからも常にこのことを心中に想い、本部の業務に取り組んでいきたいと思っています。

今後ともよろしくお願い致します。

それでは、次号登場していただく方のご指名ですが、このページでもご説明がありますように、わたくしも参加しておりますイエス団報編集委員会より、各ブロックから一施設指名させていただきますので、それぞれの施設からお一人ずつご出稿いただくことになりましたので、よろしくお願い致します。

『イエス団の輪っ』について お知らせとお願い

■「イエス団の輪っ」は、これまで理事・評議員から1名、職員から1名、計2名の方にリレー原稿をお願いしていましたが、次号16号から、職員は各ブロック内で1名ずつ、計4名の方にリレー原稿をお願いしていきます。お願いした方は、ご快諾のほどをよろしくお願い致します。また、次の方（施設）の指名も合わせてお願いをします。

（イエス団報編集委員会）

施設紹介



のぞみ保育園

のぞみ保育園は、神戸市須磨区にあります。須磨区と聞いて、海辺を想像されるかもしれませんが、私たちの保育園は北須磨地区にあり須磨離宮公園をずっと登った『市営地下鉄・名谷』にあります。『名谷』は開発されたニュータウンで、整備された町並みが続きます。ちょっと散歩に出ると、いたるところに公園があり、さすがに山間にある保育園で、鳶がくると飛んだりします。

のぞみ保育園は町の開発に伴い整備され、開設34年になります。私たちは、この地域とともにどのように歩いていくのが大きな課題です。現在は、入所の子どもたち、一時保育の子どもたち、園庭開放の子どもたち、地域との連携を事業の柱として取り組んでいます。



のぞみ保育園では、乳児クラスでは担当制保育を導入しています。小さな乳児の子ども達

にとって、安心した毎日の生活を確保し、できるだけ特定の保育士が関係を持って育ちをばぐくむことができるように工夫します。

けれど、決して「一人で見る」のではなく、クラス担任が全員で責任を持ちながら、担当の保育士が中心となって保育することを大切にしています。個々との関わり、けれど集団でこそ得ることのできる活動など、のぞみ保育園の乳児保育確立に向け模索中です。

幼児クラスでは、子ども達が感じ・考え・工夫・協力する保育を目指しています。そして今年、年長組みで一番大切にしていることは「つながる」保育です。保育の活動が、ひとつひとつがばらばらであってはいけません。保育者が、子ども達に経験させたい内容が連続性を持って展開され、そこにこどもの主体性が尊重された保育であってほしいと考えています。保育は保育士のメッセージです。今年10月の「親子で遊ぼう」(のぞみ保育園では、運動会と言う名称でなく親子で遊ぼう)で、ソーラン節を踊りました。ストーリー仕立てになった演舞で、子ども達の心も、また見に来てくださった保護者の心にも、力強い命の輝きを

放つことができました。親子で遊ぼうでは、子ども達の製作物を園庭に飾りました。年長のクラスで製作した入場門『ぶどう丸』から、子ども達が飛び出して演舞しました。

また、保育園の子ども達の中には、特別支援の必要な子ども達もいます。バギーで保育室の中を移動していると、クラスの子ども達は優しく「とんとん」と肩をたたいてにっこり笑顔を向けています。ただそれだけです。子ども達のこだわりや偏見のない『受け入れる』姿に私たちも励まされます。

一時保育の子ども達は、月平均40人ほどの利用があります。仕事がある場合や、保護者の方の病気であったり、利用の理由は様々です。昨年の9月より、一時保育室を整備したため、落ち着いた様子で過ごしています。

園庭開放は、今年度本格的に曜日・時間を設定して行っています。定着して来てくださる方が出てきました。

地域の連携では、神の谷地域と西落合地域とが協力し、『かっこっこ』(親子で遊ぶ企画)を計画しています。夏には幼稚園での水遊び、秋には小学校でのやきいも、春にはかっここまつり、中学校での命の感動体験など、地域児童委員、民生委員、婦人会、児童館、北須磨支所のこども家庭支援室、幼稚園園長、保育園園長が協力して地域の子育てを応援する集まりです。

若い保育士が多く、悩んだり、迷ったり、壁にぶつかったりの毎日ですが、“ミッションステートメント 2009”の実現に向け歩んで行きたいと頑張っています！



データ

〒654-0155 神戸市須磨区西落合 7-1-1

TEL : 078-791-8446 FAX : 078-791-8491

E-mail : nozomihoikuen@energy.ocn.ne.jp

「真愛くもちホーム」の開設

真愛ホーム施設長 出上 俊一

私ども真愛ホームは、特別養護老人ホームの運営を中心に各種の高齢者福祉事業を拡充し、地域の皆さまとともに歩んでまいりました。

この間に高齢化社会はますます進み、老老介護世帯や独居高齢者世帯も年々増加し、終の棲家としての特別養護老人ホーム真愛に入居を希望される高齢者の方もますます増加しています。

この度、神戸市の認可を受け、地域小規模特養として、3ユニット（29名）、ショートステイ（6名）の「真愛くもちホーム」を4月1日に開設しました。

奇しくもこの地は、賀川豊彦が、1907年から神学を学んだ神戸神学校があったところからすぐ山側にあり、神戸の市街地を見渡す高台にあります。

私どものイエス団の創始者賀川豊彦の思いを今一度確認し、新たな福祉事業を展開することがこの地域での更なる証であると考え、今まで培ってきた高齢者事業や介護のノウハウを生かした小規模特別養護老人ホームの運営に当たる所存です。

高齢者が住み慣れた街で、今までの人間関係を大切にしながら生活する場として小規模特別養護老人ホーム「真愛くもちホーム」を今後ともご支援下さいます様お願いいたします。

真愛くもちホーム事業概要

○所在地

- ・神戸市中央区熊内町5丁目10-8
- ・真愛ホームから北へ約1.5km

○建築概要

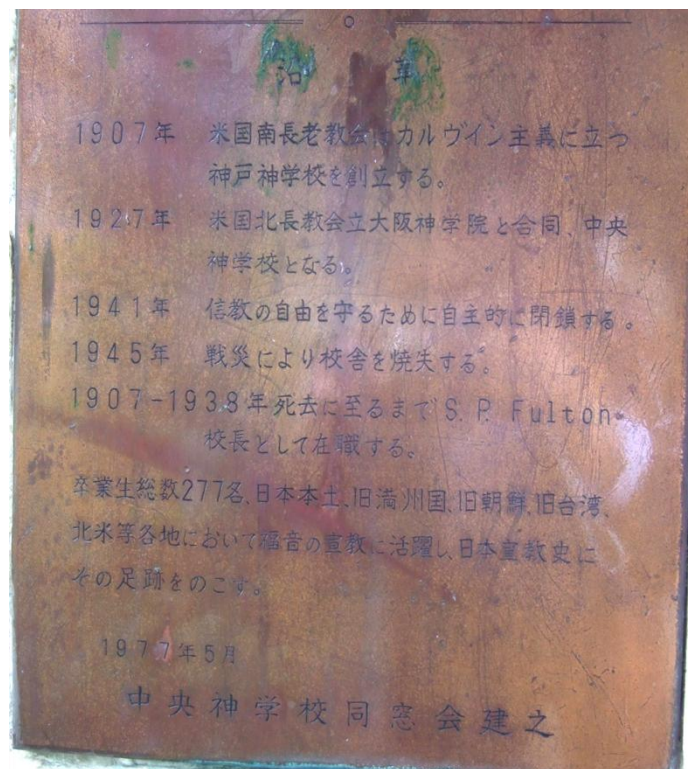
- ・敷地面積 790.11㎡
- ・鉄筋コンクリート作り3階建て
- ・延べ床面積 1,229.05㎡
- ・入居定員 特養入居者29名、
短期入所者生活介護利用者6名

○運営方法

- ・真愛ホームのサテライト施設として運営

○開設日

- ・2012年4月1日



沿革

- 1907年 米国南長老教会はカルヴィン主義に立つ神戸神学校を創立する。
- 1927年 米国北長老教会立大阪神学院と合同、中央神学校となる。
- 1941年 信徒の自由を守るために自主的に閉鎖する。
- 1945年 戦災により校舎を焼失する。
- 1907-1938年 死去に至るまで S. T. Fulton 校長として在職する

卒業生総数 277 名、日本本土、旧満州国、旧朝鮮、旧台湾、北米等各地において福音の宣教に活躍し、日本宣教史にその足跡をのこす。

1977年5月

中央神学校同窓会建之



データ

〒651-0056 神戸市中央区熊内町5丁目10-8
TEL : 078-241-0081 FAX : 078-241-0082

野の百合保育園



併設の空の鳥幼児園と廊下で続く平屋建ての園舎、全ての保育室から園庭が見渡せ、その南側には緑がたっぷりの公園が広がっています。向島ニュータウンの高層マンションに囲まれながらも、この一角は、地域の方々にとっては、ほっこりと心が落ち着く空間となっています。公園の真ん中を流れる小川は、一時、ゴミとヘドロにまみれ、豊かだった生き物の姿も見られなくなりましたが、現在、地域の方々と共に清掃活動を行いながら『蛍が舞う向島』をめざし、愛隣館職員一同励んでいます。



左の写真は、開園の日に馬見労務保育園から贈られたペカンの木です。今では、大木となり豊かに実を結んで私たちを見守ってくれています。



春 — 違いを認め合う

春は新しい出会いがあります。特に、幼児クラスでは、空の鳥の年長児のお友だちを迎え、新しい大人数のクラスとなります。歩けるお友だちと車椅子で移動するお友だち、言葉で思いを伝えられるお友だちと身振り手振りで一生懸命コミュニケーションをとるお友だち、給食をおいしそうに食べるお友だちとチューブで栄養を摂取するお友だち…一人ひとりが今日からクラスのかげがえのない仲間です。子どもたちは、生活の中で、「一人ひとりみんな違っていいんだ。違って自分のことも大好き！お友だちのことも大好き！！」と思える子どもに育っていきます。



夏 — いのちと平和

2005年より、京都ブロック主催の『沖縄平和研修』に、職員がかわりあって参加しています。沖縄の歴史を学び、現状を知ることで、「いのちと平和」について、深く考えさせられます。その思いを、子どもたちにもしっかり伝えていきます。沖縄で何十年も前に起きた悲しく、辛い出来事…「戦争はだめや。いのちを大切にしなあかん。」と、子どもたちは言います。また、美しい沖縄の海の写真を見て、歓声をあげる子どもたち。でも、この美しい海で暮らす生き物のいのちが危ない…。それを知ると、悲しそうに「ジュゴンのお家を守るためにはどうしたらいいの…？」と真剣なまなざしで保育士にたずねてきます。今自分たちにできることをやっいてこう…と、毎年いろんなことを考え、取り組む子どもたちです。



秋 — 自然とみのりに感謝

園内にはたくさんの果物や野菜が実ります。秋の恵みに感謝しながら、みんなで収穫します。「収穫感謝祭」の日には、礼拝後、園庭で大鍋を囲みながらクッキングを楽しみます。秋のすがすがしい青空の下で、みんなでいただく具たくさん豚汁は、愛隣館の名物ともいえるおいしさです。



冬 — 隣人と共に生きる～繋がりを大切に～

私たちは、子どもたちに「人はいろんな人とつながりあって生きているんだよ。お年寄りの人であったり、障がいのある人であったり、病気の人や困っている人、悲しんでいる人…、さまざまな人のことを考えられる、心の優しい人になればいいね。」と伝えます。地域の方々との交流を大切に考え、年に数回いろんな形で、ふれあいの活動をおこなっています。

データ

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151
TEL : 075-622-8545 FAX : 075-622-8546
e-mail airinkan@garnet.broba.cc

「かがわ・子ども子育て

支援センター事業推進委員会」の動き

香川県内のイエス団の施設は4カ所。その内、坂出育愛館（坂出市）と豊島神愛館（土庄町）は共に築後長い年月が経過し、老朽化が著しくまた耐震性の問題もあり、法人理事会でも建替えもしくは改築、移転…など色々な計画が何度か提案されました。けれども多くの課題を前に具体策を見ないまま現在にいたっていました。

これ以上放置することは許されない。二つの施設が担ってきた使命を継続させなければならない。同時に新たに求められる社会的ニーズに対応しなければならないという認識のもと、法人では2010年度末「かがわ子育て支援事業構想」を打ち出しました。乳児院と保育所の機能を有する複合施設として再構築し、西讃地域（香川県西部）の子育て支援の拠点施設となるべく事業を立ち上げようとするものです。

その実現に向けた課題の分析と対策を協議することを目的として、2011年度から専門委員会を設置し11名の委員で動いています。設置初度は、豊島対策・坂出対策・グランドデザインの3つのグループに分かれて課題を細分化し取り組みました。特に豊島対策ワーキンググループ（以下WG）では乳児院が移転した場合の豊島に与える影響、その対策に地元関係者の皆さんと協議を進めました。「豊島の福祉を考える協議会」の立ち上げに発展しています。坂出対策WGでは坂出市当局、育愛館職員に向けた取り組みを進めました。グランドデザインWGでは、設計事務所との協議の他、行政当局との交渉などを進めています。

2012年度に入り、香川県も乳児院の方向性について積極的に関わってくれるようになり、委員会では、坂出市への移転について具体的な検討を進めています。土地取得費や建築工事費など資金面はもちろん、職員方の理解、利用者の理解、地域社会との関係など多くの課題はありますが、これからの児童福祉総合施設のモデルとなるべく検討を深めています。

両施設は、賀川先生に影響を受けた故吉村静枝姉が設立に際して大きな働きをなさっており、60余年を経て坂出の地で複合施設として再び生まれ変わることになります。各方面の交渉など具体的には坂出育愛館・豊島神愛館の両館長が中心を担っていただいています。香川県で働いたイエス団の先人の方の遺志を受け継ぎ、より発展させた働きが強められることを願って委員会を進めています。2012年度内には、事業計画の大枠と具体的な建物の図面、資金計画などが公開されることを目標に関係機関と協議をすすめています。どうぞお祈りの中に覚えていただき、物心両面でのご援助をお願いするものです。

委員長 黒田信雄（四国ブロック長 光の子保育園園長）

「保育将来構想委員会」

昨年度より移り変わる制度改革の中、委員会が立ち上げられました。委員会の目的としましては、①幼保一体化の流れの中、保育制度の情報収集に努め計画的に移行が進められるように準備を進める。②少子化や補助金削減の流れの中、各施設が健全に運営できる経営力を向上する。③定員割れ、保育士不足、保護者とのトラブル、職員間のチームワーク不足、施設の老朽化、経営悪化など各施設が抱える課題を共有し整理する。④理事会や各施設、職員、保護者に対して、保育の現状や課題について発信し理解を深める。⑤保育内容の充実をはかるため、イエス団の目指す保育を検証し、共通の指針を作成する。これら5項目の内容を検討し保育の向上に繋げていければと思います。現在は⑤の「イエス団の保育とは」の作成に取り組んでいます。

各施設同じ理念のもと保育を実践しているものの、立地する土地柄や設立した歴史的背景によって保育の形態や活動内容は違います。今後基本となる子ども理解（児童観）、保育原理（キリスト教保育原理）、賀川の幼児教育にスポットを当て、法人全体で新たな指針を作り上げて行くことによって共通理解を深め、より子どもたちが大事にされる保育が展開され向上して行くことを願っています。

委員長 嶋田良介（大阪ブロック長 天使保育園園長）

J. B. フェローズ活動報告

J. B. フェローズ四国が始まりました！

2012年4月から本格的に活動が始まりました。四国ブロックは香川、徳島と2県にまたがり、また海を隔てて施設が離れているため、これまで深い交流がもてませんでした。何もかもが初めての、手探りの活動です。

第一回目の活動の場に選ばれたのは、瀬戸内海にちょこんと浮かぶ小さな島、豊島（てしま）です。

豊島はイエス団と関わりも深く「福祉の島」と呼ばれています。その小さな島に30名近くの方が文字通り山を越えて海を渡って集まってくださいました！

豊島にある特別養護老人ホーム豊島ナオミ荘、乳児院豊島神愛館、瞳保育所の3施設で行う合同夏祭りに参加して下さるためです。利用者さんに夏祭りの雰囲気味わっていただきたいと長年続けてきた行事ですが、なんと今年は大雨が！自然の力には抗えません。あきらめかけていた私たちの背中を押してくれたのは、フェローズの先輩方でした。「少しの時間でもいいから豊島に行って何かしたい」その言葉に、急遽プログラムを見直しました。そしてそれぞれの施設内で楽しめることを考えました。

利用者さんが笑顔でその日を過ごしたのはいうまでもありません。急ごしらえのお楽しみ会。それを可能にした

のはフェローズの方たちの実践力によるものです。



瞳保育所での一コマ

わらべうた、手遊び、腹話術(!)身近なタオルを使った遊び…次々と出てくる職員の技に子どももお年寄りも職員もたくさん笑ってたくさん学びました。

本当に短い時間でしたが「目の前にいる人の助けになりたい、という気持ちを持って、自分のできることをやる」ととてもシンプルで真っ直ぐな活動になりました。

私たちはイエス団の仲間。いつでも助け合える、一緒に「何か」ができるということを直接体験することができました。それぞれが得た貴重な経験が次の活動につながっていく力になります。今度は私たちが四国を飛び出してみなさんのところへ行くかもしれません。ご期待ください!

どのような活動でも難しいのが継続です。私たち J.B. フェローズ四国ブロックはこれからどんな活動を続けていくのでしょうか。たくさんの学びの中から、道を模索していきたいと思います。私たちの活動は始まったばかり! フェローズの皆さんと一緒に、楽しみながら進んでいきたいと思っています。どうぞあたたかく見守ってくださいね。

報告: 四国ブロックリーダー 瞳保育所 飯原 有紀子

JBフェローズ京都ブロック活動紹介・報告

今年度「JB フェローズ京都ブロック」では、

- ① 全体会 ②施設間交流(園児含む or 職員のみ)
 - ③(給食・発達障がい)に関する意見交換会
- の3つの柱を決めて活動することに決めました。

①全体会

今回は各施設・職員の個性を大切にしながら、より職員同士が仲良くなれる交流会を企画しました。『JBF 京都大作戦 2012』11/17(土)開催

②施設間交流

園児同士の交流は、活動時間に制限のある中、より楽しめる様に工夫しながら行なっています。ドッチボールや歌・ダンス・園庭遊びなど、交流後は園児達も他園のことも意識するようになり、園内だけに留まらず繋がり・育つ感覚が育っている様に感じます。

③意見交換会

「発達障がいに関する意見交換会」

第1回は、施設方針の違いや、体制や環境上の課題等もありますが、解決に困った時には、その枠を超えて(例: 個人→グループ→クラス→園→他施設・地域→…)アイデアを出し合いながら、助け合っていくことの重要性を学べ

る機会になったと思います。すぐに的確な答えが出る課題ではありませんが、協力しあいながら、良い方向に向かっていければ…と思います。(第2回 11/22 開催)

「給食に関する意見交換会」

僕自身は給食に関しては全くの無知でしたが、話し合う中で、中々給食担当者の声は、反映されにくい構造になっているのでは?と感じる所もありました。B4サイズの「給食だより」紙面を、毎月1人で、しっかり書いている職員の方もおられました。せつかくの声をもっともっと届けたいと思いました。

保護者へ給食・食育の意識を伝えることも大切ですが、まずは足元から、普段保育に関わっている職員に、給食・食育を考えてもらえる機会も増やしていこうと確認しました。(第3回 2013年1/15 開催予定)

また豊島にあるイエス団を覚えて、豊島をもっと身近なものとして感じることでできる活動も積極的に行なっていこうと考えております。

まだまだJBF京都の取り組みとしては、どれも始まったばかりですが、やはりこういった交流を通して、ぼんやりとしか見えていなかったもの(課題や目標)がはっきり見えてくる、そして、解決の方法を色々な側面から検討・実施することができる、いい機会を与えられていると感じます。

今後もこういった横のつながりを大切にしながら、より多くの笑顔に出会うことのできるイエス団になっていけば…と思います。



ぶどうの木保育園のフェローズ



宇山光の子保育園のフェローズ



桃陵保育園のフェローズ



京都ブロック長 桃陵乳児保育園 宇野 豊園長
報告：京都ブロックリーダー
障がい児・者ホームヘルプ事業『ゆうりん』 森 拓平

J. B. フェローズ兵庫ブロック活動報告

2012年度これまでの活動では特に、『イエス団のつながりの深さ・強さ・あたたかさ』を感じるものとなりました。

①東日本大震災復興支援Tシャツの完成・販売

皆様すでにご愛用くださっていることと存じます。着心地いかがでしょうか？ 私達が昨年度から引き続き取り組んできたことが、今年ついにひとつの形となり、本当に嬉しい瞬間でした。たくさんのご理解・ご協力をいただきまして、販売総数はTシャツ・ポロシャツ合わせて1,000枚を超えました！（11月末時点）各施設長及び JB 委員を通して、メールでの案内のみだったにもかかわらず、ブロックを問わず多くの職員の皆様からご支援いただきました。感謝申し上げます。Tシャツの販売は賀川記念館にて継続中ですので、今後とも是非ご利用下さい！ 兵庫ブロックも「ここで終了」ではなく、息の長い支援を目指して、次の段階を模索中です。

②施設訪問研修（公開保育）

昨年度「公開保育」という名称でおこなっていたものを今年度は「施設訪問研修」とあらため、また全ブロックにご案内することにして開催しました。昨年度から通算して4回目となる今回は、10月16日（火）甲子園二葉幼稚園で行われました。「イエス団唯一の幼稚園」ということで、皆様大変興味

をもって参加されました。幼稚園というと、日々のプログラムが設定されている印象を受けがちですが、こちらでは子ども達がやりたいことを選べるようになっており、「子どもの主体性」が尊重されていたことがとても印象的でした。次回は来年2月13日、のぞみ保育園で開催されます。

③交流会の開催

去る10月20日（土）18時より、賀川記念館にて交流会を開催しました。JB フェローズとしてスタートしてから、ブロック内で交流会を行うのは初めてでしたので、職員の皆様がどんなふうを感じるのか、他施設の方々とどれだけ話ができるのか等、委員はいろいろと思いを巡らせたものですが、いざ始まってみると、かなり早い段階からそれぞれ話が盛り上がっていました！ グループはあらかじめ分けておきました（①なるべく同じ施設の職員が重ならないように ②同じぐらいの経験年数の方同士が一緒になるように、を基準に）。プログラムは、第1部グループワーク 天隣乳児保育園 岡山泰典園長による「お宝発見タイム」。各グループで他己紹介・自分の施設自慢を経て、施設の共通項を発見し、それを発表することでイエス団兵庫ブロックの「お宝」をあらためて見つめ直す時間となりました。第2部は親睦会。おいしい食事をいただきながら、グループで親しくなった仲間とさらに親睦を深めていただきました。途中、神視保育園・天隣乳児保育園・のぞみ保育園の JB 委員によるクイズ大会があり、1等賞目指して各グループ力を合わせました。これは文句なし、この日最高の盛り上がりでした！

後日、参加された皆様にアンケートをとっていますが、良い反応をいただいております。これを期に、今後につなげていきたいと考えています。



交流会の一コマ



懇親会のジャンケン大会

報告：兵庫ブロックリーダー 一麦保育園 小関里美

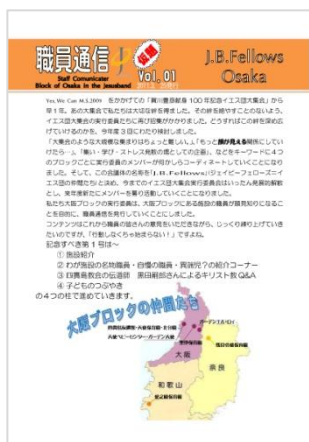
J. B. フェローズ大阪ブロック活動報告

大阪ブロックは、大阪・奈良・和歌山に施設があり、業種も保育・老人・養護施設とさまざま、京都や兵庫ブロックのように実際に一堂に会するという事は難しいため、活動当初より各施設からテーマに沿って原稿を出し合い、『職員通信』として PDF ファイルでの配信を行ってきました。過去4号まで発行しました。内容は、春・夏・秋・冬の活動を報告したり、名物職員のコーナーとして、職員の取り組みの紹介をしたり、四貫島教会の黒田伝道師による『キリスト教Q&Aのコーナー』では、知っているようで知らないキリスト教の疑問に答えていただいています。

この冬発行予定の第5号では、今までの外郭紹介から一歩進んで、施設訪問をさせていただいた職員による『施設訪問記』や、『豊島民泊レポート』、各施設の特色ある取り組みや職員バンドの紹介など、大勢ではなかなか参加できない事柄を代表レポートによって全職員でシェアできるように意識した内容となります。職員通信は他の3つのブロックにも配信してほしいという要望がありましたので、リーダーを通じて配信するようにしました。

また、職員通信を発行することによる課題も明らかになってきました。それは、施設内の担当職員とその他の職員との温度差があるのではないかとという疑問です。

そこで、職員みんなの思いにより近づけるような活動を模索するためのアンケートを実施する計画を立て、項目や分析の方法を精査しているところです。



紙面の一例

報告：大阪ブロックリーダー 愛之園保育園 升崎丈夫

表紙の写真の解説

編集委員会では、MS 2009の実践の写真を全施設に向けて募集しています。



写真No.

コメント

- 1 保育士と一緒に野菜の苗植えを経験し、土に親しんでいます。 天隣乳児保育園
- 2 ジュースを飲むお手伝いをするクラスメイト 甲子園二葉幼稚園
- 3 収穫感謝祭でさんまパーティー炭火で焼いたおいしいさんまに舌鼓をうちました。 聖浄保育園
- 4 3・4・5歳児が種もみから育てたお米を収穫しました。脱穀や粳摺りも体験して、芋粥にして美味しくいただきました。 愛之園保育園
- 5 4歳児が車道側を通って3歳児を誘導しながらお散歩に出かけます。 天使保育園
- 6 ともだち運動会で八の字跳び優勝記録は90秒で144回 四貫島友隣館
- 7 保育園児との交流で手遊びを楽しむーコマ ガーデン天使
- 8 散歩の途中で見つけたアオムシに興味津々に覗き込む子どもたち 天使ベビーセンター
- 9 近くの磯場で磯遊びをしました。すばしっこい魚を2本のたもて挟み撃ち！ 愛之園保育園

15号 編集後記

東日本大震災から1年9カ月が経過しましたが、今もなお32万人を超える方々が、帰りたいくても帰れず仮設住宅での生活を余儀なくされたり、転居せざるを得ない状態にあります。心身ともに厳しい生活を強いられておられる方々を覚え、神様の励ましと慰めがありますようにお祈りをいたします。

創設者「賀川豊彦」が、21歳の若さで余命いくばくかの宣告を受けながら、12月24日に自らをクリスマスプレゼントとして身を投じセツルメント運動を始めました。今年も多くの方々に支えられ祈られて歴史を刻んできたこの創立記念日にイエス団報第15号を発行することができました。イエス団に連なる皆さんのご理解とご協力に感謝を申し上げます。